

巻頭書



会員に優しい学会に

勅使河原可海†



最近、人に優しいということがよく言われるようになってきている。人に優しいと言うのは、ユーザフレンドリィという言葉でいわれるように、使い勝手が良い、分かりやすい、親切、便利、心地好い、とかの意味で使われている。また、自然に優しい、地球に優しいということがよく言われている。こうした人や環境との調和を重要視するようになってきたことは、大変喜ばしいことと思う。情報処理学会がこの分野でも貢献することを大いに期待している。

このことを、学会活動に関して、学会の会員への優しさということで考えてみたい。会員にとって学会が本当に優しいかという点必ずしもそうでないように思える。多くのシステム開発やソフトウェア開発に携わっている技術者の会員からは、学会がとつきにくい、難しいという声をよく聞く。

優しさの実現のためには、まず、できるだけ学会とのふれあいを深めることが重要と考える。学会活動、例えば全国大会、研究会等に積極的に参加している会員の数は、全体から見れば1~2割程度と推測される。もっと多くの会員の方が参加したり、なんらかの形で接触できる場を提供することを考えたい。たとえば、システム開発やソフトウェア利用を発表・討議する場や機会を提供することなどが考えられる。こうしたふれあいのためには、学会からのアプローチと共に会員からのアプローチが重要である。会員の方からの積極的な研究会等の参加や提案をお願いしたい。

優しさについては、全ての人に優しいことは難しい。一部の人のために優しいことは、他の人にとっては苦痛になることさえある。当学会は、3万余の会員が広い分野に拡がり、多種多様な関心をもっている人々がいる。したがって、きめ細かくおのおのの興味やレベルに合った対応が必要となる。理事会では、平成3年度に、学会運営企画委員会を設け、学会活動全般について、大規模化した学会と会員数の伸び悩みに対応する学会の活性

化の検討を行い、本年4月報告書をまとめ、改善策を提言している。この中で、部会制の導入、国際化への対応、電子化の推進、会員の確保、財務基盤の確立等が提言されている。部会制の導入により、会員の関心のあるテーマに対して、よりきめ細かく対応できるようになり、部会ニュースの発行、単発的な小研究会の開催等会員とのふれあいが深まることが期待できる。部会制については、今年度検討委員会を発足し、検討することになっている。学会の優しさと結びつけて、検討を進めて行きたい。しかしながら、部会制の導入には、多くの会員のサポートが必要であるなど多くの課題を抱えており、充分議論を尽くさねばならないと考えている。積極的なご意見をお寄せいただきたい。

すでに、アンケートの収集・学会誌モニタ制の導入等により、読みやすい学会誌を目指し、また電子メールの導入を行う等順次優しさを増していると思われるが、さらに、優しさを追及する努力を続け、身近で親しまれる学会にしていきたいと思っている。それにより、情報産業に携わっている技術者などの入会に結びつけていきたいと考えている。

会員の確保については、長期的な展望のもとに、学会側からの継続的な入会促進活動が必要であるが、学会が個人ベースでの同好の士と言う原点に立って、会員各位の仲間を増やすことで学会の輪を拡げていく地道な努力が必要であると考えられる。また、当学会では、学生会員の数が約900名であり、大学の情報専門学科の入学人数が1万数千人であることからしても現在の学生会員数は極端に少ないと考える。将来の学会の重要構成員となる学生会員の増加を是非実現したいと願っている。皆さまのご理解とご協力をお願いする。

学会事務局は、今年の秋に新宿副都心のエステック情報ビルに移転する。新たなふれあいの場として大いに活用していきたい。そして、新しい革袋に、新たな息吹きを吹込み、当学会が、情報発信基地として、新たな輝きを増すことを願っている。

(平成4年5月26日)

† 本会理事 日本電気(株)